

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3171500394		
法人名	社会福祉法人 麗明会		
事業所名	グループホーム ぼんだの里		
所在地	鳥取県西伯郡大山町安原1118-1		
自己評価作成日	令和3年2月3日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人未来		
所在地	鳥取県倉吉市東仲町2571番地		
訪問調査日	令和3年2月19日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>①自然環境に恵まれて、四季折々の季節感を肌で感じていただく事ができる。利用者様が気持ち良く過ごせるよう、居室、共用スペースの環境作りに気をつけている。</p> <p>② 無理のないよう役割を持って頂き、お互いに感謝し合いながら生活して頂いている。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>・コロナ禍でこれまでのような訪問、面会ができない中、玄関で距離を置いて面会したり、窓越しに顔を見ながら電話で話したり、馴染みの関係が継続できるよう工夫している。</p> <p>・これまでの入居者の多くは、ホームを終の棲家とし、職員や家族に看取られ人生を終えている。看取りの経験が多く、利用者や家族の事情に合わせた柔軟な対応を行なっている。</p> <p>・施設の廊下が広く長いので、天候に左右されず、施設内で散歩や運動をすることができる。</p> <p>・ホーム2では昨年夏から猫を飼っており、利用者が猫を気かけたり、場の雰囲気や和むなど、癒されている。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

★努力している点

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝のミーティングで介護理念の唱和を行い、良い支援が出来るよう、皆で心がけている。	毎朝のミーティング(申し送り)時に介護理念を唱和している。理念の一つに地域交流を掲げているが、コロナ禍で実践が難しい。理念を理解し、利用者、地域に何が出来るのか考え、実践に繋げる努力をしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	現在はコロナ禍で交流は自粛しているが、以前は季節の行事等に参加したり、来て頂いていた。	前年度は事業所の行事にボランティアの参加があった。地域の文化祭や運動会等に参加していたが、今年度はコロナ禍で交流を自粛している。中学生の職場体験を受入れ、別室でレクリエーションの道具作成を手伝ってもらった。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地元の中学生の職場体験を受け入れた。コロナ禍で直接介護の場面は体験できなかったが、レクリエーションに使用する物品の作成などに関わってもらった。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	日々の利用者様の様子や取り組み等を報告している。会議の中で頂いた意見や助言等を参考にさせて頂き支援の向上に努めている。	2か月に1度の運営推進会議を開催し、事業所の取り組みや内容を報告している。会議で出た意見や助言等を話し合い、その後の取組を報告し、サービス向上に努めている。コロナ禍のため、2回は集まらず、郵送で報告をした。	会議資料を郵送で行う場合に、参加予定者からの意見や助言等が出しやすくなる工夫を期待する。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議で入居者様の状況や各事業所の取組みを報告し意見や助言等を頂いている。	施設長は町の担当者等と相談しやすい関係を築いているが、最近では、運営推進会議での報告や、必要時の相談など事務的な連携に留まっている。	事業所の運営に関する些細な質問など、様々な場面で問題解決に向け、協力関係がさらに深まるよう取り組んではどうか。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	内部研修を行っている。現在ベッドからの転落防止のため、家族の同意を頂きベッド柵を使用している利用者があり、下肢筋力向上のための運動をして頂く等し、早期の解除に向けて取り組んでいる。運営推進会議で都度報告している。	リーダー研修や内部カンファレンス時に虐待防止の研修を行い、身体拘束をしないケアの実践に取り組んでいる。ベッド柵の使用には注意を払い、早期解除に向け取り組んでいる。	センサーマットの使用が身体拘束に繋がることのないよう、使用目的を職員で確認するとともに、利用者家族へも用途について説明してはどうか。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員同士で注意を払い、意識しながら防止に努めている。内部研修を受けたり、カンファレンスで学習会をし話しあって、全員で防止に取り組んでいる。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会やカンファレンスで学び、職員間で話し合い活用できるよう努めている。成年後見制度を利用されている利用者がある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前に見学してもらい、契約時に疑問点や不安なことなどをお尋ねし、同意を得るようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族様・地域の方・利用者様に運営推進会議に参加して頂き、意見等をお聞きし、運営に反映できるよう努めている。	日常的に利用者家族と職員とは、話しやすい雰囲気を作られている。また、運営推進会議には、利用者、家族代表の参加があり、意見を聞き、運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎朝のミーティングや毎月のカンファレンス・リーダー会、年1回の個別面談等で意見や提案を聞き反映出来るように努めている。	管理者はミーティングや個別面談、職員とのコミュニケーション等により意見を聞き、代表者に伝え、運営に反映するよう取り組んでいる。また、職員の働きやすい環境作りにも努めている。	職員の働きやすい環境整備の一環として、就業規則を皆で確認する機会を持つてはどうか。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、研修会参加、個々の努力、勤務状況等考慮し、各種手当や資格取得のバックアップ等、やりがいを持って働けるようにと努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間計画に添って研修会参加を実施。参加者はカンファレンス時に報告し、職員が共有できるようにしている。外部講師を施設に招いての研修はコロナ禍で殆ど出来ない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	例年、他施設と相互研修を行っているが、今はコロナ禍でできていない。		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	最初の面談時に親しみやすい雰囲気心がけ、要望等を聞き、何気ない会話の中から思いを汲み取るよう努めている。入居後も受容と共感を心がけ、安心感を持って生活して頂けるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族が話しやすい雰囲気作りを行い、じっくりとお話を聞くよう心がけている。真摯に向き合い良好な関係が持てるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	カンファレンスを開催し職員間で情報を共有し、主治医や関係機関の意見や助言を頂きながら、必要としている支援や他のサービスも含めた対応を検討している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来る範囲で役割を持って頂き、職員も一緒にしながら、感謝しあえる関係づくりに努めている。また人生の先輩として、アドバイスや生活の知恵を伝授して頂き、懐かしのお菓子作り等を行い一緒に美味しく頂いた。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ禍で面会は殆ど出来ていないため、月々のお手紙を写真付きにし、家族に喜んで頂いている。必要に応じ電話などで様子や体調などをお伝えしたり、本人と会話して頂いた。代弁が必要な利用者と家族の橋渡しとなるよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍で十分な支援は行えていないが、生活歴を把握し、馴染みの場所の話題を提供する等した。	★コロナ禍でこれまでのような訪問、面会ができない中、玄関で距離を置いて面会したり、窓越しで顔を見ながら電話で話すなど、工夫している。利用者との会話で馴染みの場所を話題にし懐かしんだり、関係継続に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず に利用者同士が関わり合い、支え合えるような 支援に努めている	利用者の性格等を把握し、テーブル席に配 慮したり橋渡しをおこない、利用者同士がコ ミュニケーションがとれ、支えあ関係性が 築けるよう努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関 係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族 の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了しても、これからも気軽に相 談できる場所であることを家族にお伝えして いる。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握 に努めている。困難な場合は、本人本位に検討し ている	日々の暮らしの中での表情や行動、又会話 の中から思いや意向などを把握する様努め ている。	外に出て歩きたい利用者、ホールでゆっくり 過ごしたい利用者といろいろな場面がある が、一人ひとりの思いを汲み取り、利用者 に寄り添い、その人らしく豊かに過ごせるよう 努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環 境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努 めている	入居前の生活状況など家族にお聞きした り、関係機関と連携をとりながら、これまで の暮らしを把握し、安心して暮らして頂ける 様支援している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する 力等の現状の把握に努めている	毎日一人ひとりの体調や生活リズムを把握 し、その人らしい生活と活動ができるよう支 援している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方 について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、 それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即 した介護計画を作成している	必要な関係者と連携をとりながら、毎朝の申 し送りや毎月の主治医による往診時、カン ファレンスにて意見交換を行い、現状に即し た介護計画を作成する様努めている。	日頃の関りの中で家族の意見等を聞き、本 人の意見や意向は生活の中で汲み取るよう にしている。主治医の意見も反映させつつ、 毎月のカンファレンス等で意見交換し、利用 者主体の暮らしが出来る介護計画を作成し ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を 個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら 実践や介護計画の見直しに活かしている	統一したケアが提供出来るように、個別記 録や連絡ノートがいつでも確認できるように している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	今現在は面会がほぼ出来ないが、家族や近隣の方と連携をとり、本人の心配ごとや通院等、柔軟に対応する様努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	今年は出来なかったが、例年は地域から内部研修やボランティアに来て頂き、レベルアップや交流を図っている。消防署の協力で消防訓練を実施している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医に月1回の定期往診に来て頂き、必要によっては家族へも随時連絡を取りながら、一緒に同伴して頂くこともある。	ホームの協力医をかかりつけ医とし、毎月の往診や緊急時の相談対応など、関係を築いている。専門的な治療を要する疾患は、家族と連携しながら、受診支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の関わりの中で得た情報や気付いた変化などを看護職に報告し、こまめに情報をやり取りして、できるだけ早期発見・早期の対応ができるよう心がけている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院となった際、医療機関に情報提供をし、安心して治療を受けられる様、また早期に退院できるよう、医療機関、家族との情報交換や連携をとりながら支援している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	医療機関と連携をとり情報を共有し、本人や家族様の要望をお聞きし、事業所として出来る事を説明しながら、後悔のない対応ができるように努めている。	入居時やカンファレンス、重度化したときなど、都度、家族等と話し合い、終末期の方針を共有し、支援している。★看護師の配置があり、医師とも連携をとりながら、職員と家族と共に看取りを行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	AEDを設置し救急蘇生法の講習会を開催するよう努めているが、今年度は実施できておらず実践力が不足がちである。定期に看護師カンファレンスを実施し、併設事業所の看護師とも連携がとれるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域の消防署の協力で定期的に総合防災訓練を行っている。地域の方にも見学をして頂いた。地区自治会と地域福祉の向上及び防災減災を目的とした覚書を交わしている。	併設しているデイサービスセンター等と共に、年に2回訓練している。運営推進会議に合わせて避難訓練を開催し、地域の代表等に訓練の様子を見学してもらった。	利用者の状況をふまえ、災害時の避難策について、さらに具体的に検討し、準備してはどうか。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々の人格やプライバシーを尊重し、言動に十分注意しながら支援するよう心がけている。	職員会議等で人格の尊重について研修し、言動に注意した支援を心がけている。特に、排泄、入浴や就寝時は、利用者の誇りやプライバシーを損ねないよう配慮し対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日頃の表情や言動などから、本人の思いや希望を汲み取り、理解するよう努めている。少しでも自己決定が出来る様支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の思いや体調を考慮し、本人に無理のないよう気を付けながら、希望に沿えるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	希望により月1回の訪問理容サービスを利用して頂きながら、気分良く暮らして頂ける様支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事が楽しみとなるよう、個々の状態に配慮しながら提供している。今は職員は同じ空間で少し距離を置いて食事をしている。	昼・夕食は併設施設の厨房からの中央配膳である。嗜好を把握し、献立に取り入れれたり、月に1度誕生会の食事を提供したり、食事が楽しみなものになるよう工夫している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日食事・水分量をチェックしている。必要により食事形態を工夫し、食事量が確保できるよう支援している。少ない時は好みの物や飲物を提供している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	出来る部分は本人にして頂き、出来ていない部分は支援を行っている。拒否がある場合は、文字にして読んで頂いたりし、協力して頂ける様工夫している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の様子や排泄パターンに合わせ、チェック表などを確認しながら、声かけをし排泄案内を行っている。	利用者の排泄パターンに合わせ、居室にあるトイレでの排泄を支援している。一部の利用者は夜間ポータブルトイレを利用し、無理のない排泄を支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	チェック表を確認しながら、毎日の体操や、提供するおやつなども工夫し、便秘の予防に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	その日の気分や体調を考慮し、入浴を楽しんで頂けるよう、声かけに工夫したりタイミングに配慮している。	午前の時間帯で、週に2回は入浴を楽しめるよう、声かけやタイミングを配慮している。浴室の環境を整え、浴槽台やバスボード等を準備し、なるべく浴槽につかれるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の希望に合わせてながら午睡の声かけをしたり、状態や体調に合わせて、自由に過ごしてもらっている。一日の生活リズムを整えながら、安心して眠れるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者の服薬内容について把握するよう努めており、服薬支援時には入居者様の名前・日付けを声に出して確認している。また、薬の変更があった場合は状態に変化が見られないか注意し支援している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりのこれまでの生活歴や力に沿った役割・楽しみを提供し、穏やかで喜びのある生活が出来るよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	重度の方もおられ、全員での外出が難しくなってきた。コロナの影響もあり外出は困難となっている。	花見や紅葉ドライブを行ったが、コロナ禍の今年度は、外食など皆で戸外へ出かける計画が実施できていない。天候のよいときは、戸外を散歩するなど、個々の希望に対応できるよう心がけている。	気分転換をするためにも、可能な限り外出の計画を実施してほしい。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理が困難な方が多いため、家族様より預かり事業所で管理している。買い物など必要な時は、家族様と連絡を取り合い対応している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望により職員が家族様や知人へ電話の取次ぎ等支援している。また、携帯電話を所持している利用者もある。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有スペース内の飾り付けを入居者様と一緒に考え、季節を感じてもらえるようにしている。空調にも配慮し安心して居心地良い空間となるよう支援している。	ホーム1と2が内部でつながっているが、利用者の混乱を回避できよう、居室の扉等の配色をホームごとで統一している。天気のよいときは、戸を開け外気を入れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	訪問時は冬季で、居間や浴室は暖房され居心地よく管理されていたが、トイレへの動線である廊下の寒暖差に配慮してほしい。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う方といつでもお話ができるよう場所の配慮を行っている。また、玄関ホール等にソファを置き、一人ひとりが自由に過ごして頂けるよう支援している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	安心して過ごせるよう、家族様や本人と相談しながら、家族様の写真を置いたり、使い慣れた家具や椅子などを用意し居心地の良い居室となるよう支援している。	居室には利用者のなじみの物や家族の写真などが飾られ、居心地よく過ごせるよう工夫をしている。各居室にあるトイレと洗面台も、使いやすく清潔に保たれている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者の状態に合わせて、洗濯物や新聞を届ける等出来ることは本人にしてもらい、安全に移動できるよう押し車を使用してもらったり、歩行の妨げになる物を置かないように注意している。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3171500394		
法人名	社会福祉法人 麗明会		
事業所名	グループホーム ばんだの里 2		
所在地	鳥取県西伯郡大山町安原1118-1		
自己評価作成日	令和3年2月3日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人未来		
所在地	鳥取県倉吉市東仲町2571番地		
訪問調査日	令和3年2月19日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>①自然に囲まれたアウトホームな雰囲気作りを心がけている。施設で保護猫を飼っており、入居者様の癒しとなり、アニマルセラピー効果が期待できる。</p> <p>②それぞれの入居者様が、楽しみながら身体機能を維持できるよう、リハビリ体操やレクリエーションを提供している。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

別紙参照

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

目標達成計画

作成日 令和3年 3月 30日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。
 目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	2	職員は就業規則のファイルの存在を知っており、いつでも見る事ができる状態になっているが、内容が古く、現状に合っていない部分が生じている可能性がある。	現状に合い、職員が働きやすい内容になっているか確認する。	・定期カンファレンス等で就業規則を皆で確認し内容を把握する。 ・現状にそぐわない部分があれば、法人に伝え検討を要請する。	12ヶ月
2	35	避難訓練を年2回実施している。特に夜間想定では、もう少し具体的に避難の仕方などの検討をし、より実際の場合に近づいたものになりたい。	夜間の実際の場合を想定し、自主的に訓練の計画をし実施してみる。	・毛布等を使用しての避難の仕方など、重度の利用者を想定しての避難の訓練をする。 ・居室窓からの避難の訓練をする。 ・ヘッドライト、テラスのライト取り付けなど、必要な物の洗い出しや整備を行う。	12ヶ月
3	49	令和2年度は、外食など皆で戸外へ出かける計画が実施できなかった。出来る限り外出の計画をし、皆さんに気分転換をして楽しんで頂きたい。	感染症対策をして、可能な限り外出をし、気分転換をして頂く。	・行事委員会で外出の計画を立て実施する。 ・好天の時は、外を散歩したり、施設裏の芝生でレクリエーションや外気浴をして、楽しんでいただく。	12か月

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入して下さい。